日刊
動労千葉
82・4・14
No. 1019
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）0472(22)七二〇七

三里塚・ジエット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

春闘速報 国鉄当局、3・16%の超低額回答を提示（4/13夜）

賃金抑制・スト圧殺の攻撃に 怒りをもって決戦スト（4/15～16）を闘いぬこう。

82春闘が、総体として政府・日経連・同盟JCの「管理春闘」「準備会春闘」という厳しい情勢と、「オ二臨調」、マスコミの「反国鉄」キャンペーン、加えて、権力＝国鉄当局＝動労「本部」革マル反動分子等の悪質な国鉄労働運動解体＝動労千葉破壊攻撃の激化の中で、われわれは、「'82反合春闘・三里塚」を闘う路線をもって決戦ストにむかってつき進んでいる。動労千葉は、13日より公労委の場に関川委員長、中江顧問、山口副委員長、布施交渉部長をはじめ六名の交渉団を派遣し、精力的な活動を現在続行中である。

「国鉄がストライキに突入すれば、格差回答・ゼロ回答だ」という政府・自民党のスト圧殺策動、賃金抑制攻撃を粉砕し、12日の津田沼での総決起集会への六五〇名結集という圧倒的勝利を引きつぎ、4・15～16決戦ストへむけ闘いぬこう。

国鉄当局に、『交渉うち切り』を通告（12日夜半）。13日午前10時、公労委・関東地調委へ調停を申請。

本部は、本年一月実施した、賃金・生活実態調査と賃金引上げ額要求の調査結果にもとづき、'82春闘賃金引上げについて、①生活防衛、②物価上昇率、③中高年是正、格差問題などを充分加味した中で、「申オ六号」をもって、去る3月9日、国鉄当局に申し入れを行った。以来、計八回にわたる対国鉄当局の団体交渉を積み上げてきた。

4月12日の交渉の席上、①有額回答を早期に示せ。②民間賃金準拠の原則。③仲裁完全実施。④国鉄格差問題などを含めて、厳しく当局を追及した。

これに対し、当局は、「現時点においては、具体的な回答額を提示することはできない」との回答に終始するばかりであった。

こうした交渉経過の中で、「国鉄当局の当事者能力皆無と断ぜざるをえない。これ以上団体交渉を継続しても前進した回答は困難である」との判断にたって、12日夜半、国鉄当局に対し、『団体交渉の打ち切り』を通告した。

『通告』後、本部は、ただちに、公労委・関東地調委に「調停申請」をし、4月15日～16日の決戦ストを背景として、賃金引上げの闘いを続けることとした。

公労委・関東地調委で、事情聴取はじまる（4/13 18時より）

動労千葉からの調停申請にもとづき、4月13日、18時より、関東地方調停委員会の『事情聴取』が開始された。

この『事情聴取』には、当局側より、国鉄総裁代行・片岡千葉鉄局長以下六名、組合側から関川委員長・中江顧問・山口副委員長・布施交渉部長以下六名、関東地調委より三藤委員長・車田労働側委員・白木使用者側委員がそれぞれ出席して行われた。

事情聴取は、三藤委員長よりの質問によって進められ、①当事者能力、②調停申請理由、③団体交渉の経過、④有額回答の時期、⑤ポイント賃金要求の内容などについて、労使双方の対立点が明らかにされた。

この中で、動労千葉は、①いまだに有額回答をしない国鉄当局の不誠実さ、②賃金に対する当事者能力の欠如などについて追及し、③早期に有額回答を出し、国鉄労働者へのいかなる賃金差別もしないこと、を要求した。

最後に、三藤委員長から「本件問題は、内容上、中央課題であり、今後の調停作業は、公労委に上移したい」との発言があり、労使とも了解し、関東地調委での事情聴取を終了した。

国鉄当局＝三・一六%（六、三八〇円）の有額回答を提示 組合側＝「まったく問題にならない」と拒否！（4/13、22時30分現在）

関東地調委の調停作業の推移を受けて、動労千葉は、国鉄本社において、13日、22時30分より団体交渉を行った。

席上、国鉄当局は、次の通り、82年度新賃金の『有額回答』を提示した。

4月1日以降の賃金引き上げ、一人平均 二、〇一九円（一%）

これに、定期昇給分、四、三六一円を加え、六、三八〇円（三・一六%）の引上げを行う。

これに対し、組合側は、「まったく問題にならない」として、このオ一次回答を拒否した。

全組合員の皆さん、明日、明後日の決戦ストを背景に、更に当局側を追及し、低額回答打破・大巾賃上げ、生活防衛、オ二マル生粉砕を闘いとろう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！